

Newsletter

平素より 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（以下、CATO）の活動にご理解賜り、ありがとうございます。CATO の活動を多くの方に知っていただきたく、この度、Newsletter 第5号を発刊いたしました。

CATO は82の医科大学・医学部、29の歯科大学・歯学部を支えられている組織です。今後とも引き続きお力添えの程、よろしくお願い申し上げます。

Headline

- ◆ごあいさつ 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 理事
公益社団法人日本医師会 常任理事 今村英仁
- ◆2025年度医学生共用試験臨床実習前(CBT・OSCE)及び臨床実習後 OSCE の報告
- ◆CATO委員会のご紹介
- ◆OSCE 評価入力システム説明会（Web）のご報告
- ◆医学系・歯学系 全国規模の説明会・講習会のご報告（2026年2月～2026年4月）
- ◆講習会開催計画
- ◆理事会報告（令和8年2月27日開催） 及び 臨時総会報告（令和8年3月23日開催）
- ◆賛助会員 様のご紹介

◆ごあいさつ

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 理事
公益社団法人日本医師会 常任理事

今村英仁



2040 年にはどのような医師が必要となるのでしょうか？

そして、その養成課程で CATO の果たす役割とは何でしょうか？

日本医師会の担当として、厚生労働省の医師偏在対策（大学医学部、臨床研修、専門研修等の「医師養成過程を通じた取組」）、新たな地域医療構想、かかりつけ医機能報告制度、特定機能病院のあり方、文部科学省の医学教育のあり方、日本医師会の生涯教育等の検討会に出席しています。また、日本医学会、日本専門医機構とこの CATO の役員に日本医師会から参加しています。

上記は全て、将来必要となる医師の育成について議論や検討がされている“場”です。これらの“場”のほかにも、関連の下部組織やその他の組織や団体でも検討が行われています。日本医師会もこの課題を真剣に検討している団体の一つです。

実に多種多様な検討や議論が行われている中で、将来に向けて既に動き出している制度・政策も多数存在します。その一つが、医学部生の「見学型臨床実習」から「診療参加型臨床実習」を行うための臨床実習生（医学）制度です。（※クリニカルクラークシップの学生の公的な名称）

もし、診療参加型臨床実習がその機能を本当に果たすことができるようになれば、卒後の医師臨床研修制度の研修内容も大きく変わることになります。医学部生の間に現在の医師臨床研修制度に近い内容を習得できるようになれば、次に、医師臨床研修制度を改革することで、一定程度の総合的な診療能力を有する医師を早期にかつ全ての医師に育成することが可能ではないでしょうか？ 実際に、厚生労働省と文部科学省の各種検討会の報告書をつなぎ合わせるとそのような未来が想像できます。

問題は、真の診療参加型臨床実習が行われるか？です。そしてこの成否の鍵の一つがCATOだと感じます。すなわち、将来の日本の医療を背負うCATOの役割は非常に大きいものと考えます。

最後に、CATOに関わるご縁をいただいた中での感想ですが、これだけ重要な役割を果たすCATOには、十分な“人・物・金”の手当を“国”は行うべきだということです。日本の良医を育成するための要の一つのCATOには、国が責任を持って面倒を見なければならないと主張するのは暴論でしょうか？

◆ 2025年度医学生共用試験臨床実習前(CBT・OSCE)及び臨床実習後 OSCE の報告

I. 医学生共用試験臨床実習前（CBT・OSCE）

1. CBTについて

(1)2025年度は、全国81医学部・医科大学の9,455名の医学生が受験しました。そのうち、到達基準に達せず再試験になった者は625名（609名受験）最終的未到達者は212名（2.2%）でした。

(2)毎年恒例の作業として、全国の大学を対象とした問題作成講習会を2回実施しました。作成・提出された問題のブラッシュアップ作業は、例年通り実施し、また、問題の難易度や識別力のデータを解析して、良問をプール化する作業も継続して実施しました。

2. OSCEについて

(1)2025年度は、全国81医学部・医科大学の9,384名の医学生が受験しました。そのうち、到達基準に達せず再試験になった者は417名（386名受験）最終的未到達者は40名（0.4%）でした。

(2)2025 年度は、OSCE の機構主催追再試験は、下記の会場をお借りして実施いたしました。会場借用の御礼を申し上げます。

実施時期	借用大学	参加大学数	受験者数
9 月	藤田医科大学	6 大学	3 1 名
1 0 月	東京慈恵会医科大学	1 1 大学	5 2 名
1 1 月	兵庫医科大学	1 1 大学	6 1 名
1 2 月	大阪公立大学	1 3 大学	7 3 名
1 月	東京慈恵会医科大学	4 大学	1 7 名
2 月	東邦大学	2 大学	1 3 名

(3)OSCE（臨床実習前）の評価者候補者のための認定講習会が実施され、機構により新制度で認定された評価者の総数は 1 6 , 8 9 9 名になりました。
領域ごとの認定評価者数は下記のとおりです。

領域	認定評価者数
医療面接	2 , 8 0 4 名
頭頸部診察	1 , 5 6 6 名
胸部診察	1 , 8 0 7 名
全身状態・バイタルサイン	1 , 8 0 6 名
腹部診察	1 , 9 0 9 名
神経診察	1 , 6 0 6 名
四肢と脊柱の診察	9 9 7 名
基本的臨床手技	1 , 6 8 9 名
感染対策	1 , 0 2 4 名
救急処置	1 , 6 9 1 名

(4)模擬患者養成のための講習会、認定試験を実施し、機構が認定した OSCE 用模擬患者は全国で 1,200 名を超えました。

3．受験者のための合理的配慮支援、評価についての異議申し立て、試験の不正や実施要項からの逸脱事案について

(1)受験者のための合理的配慮支援について

2 0 2 5 年度の各大学からの合理的配慮の申請及び合理的配慮に必要な物品の持ち込み届出は、CBTと臨床実習前 OSCE、臨床実習後 OSCE を合わせて 4 3 5 件の申

請があり、ほとんどの大学から何らかの申請・届出がありました。内訳は以下の通りです。

CBT：申請 2 1 3 件

臨床実習前 OSCE：申請 7 9 件、持ち込みの届出 8 1 件

臨床実習後 OSCE：申請 3 0 件、持ち込みの届出 3 2 件

(2)評価についての異議申し立てについて

2025 年の異議申立て申請数は以下の通りです。

CBT では、異議申立て申請書の数、5 例ありました。申請書の内容は、提出された問題が不適切だったのではないかと、採点ミスがあったのではないかとというのが主でした。

OSCE では、異議申立申請書の数、昨年度の約半数の 8 6 例、異議申立ての報告書の数、9 4 例あり、昨年約 3 分の 1 と減少しました。領域別では基本的臨床手技、医療面接、救急の 3 領域の評価結果に対するものが多くみられました。

(3)不正や実施要項からの逸脱について

CBT 受験者のスマートフォンの持ち込みが昨年は数件ありましたが、試験会場への持ち込み許可物品を厳格化したことにより、今年度は 0 件でした。ただし、要項改訂内容の周知徹底がやや不十分だったためか、待機場所や試験室へ持ち込める物品以外の物品の持ち込み事案が多い結果となりました。

OSCE では、試験運営の逸脱や不備により、一部やり直し試験を実施しました。

Ⅱ.医学生共用試験臨床実習後 OSCE について

公的試験ではないため、機構提供の 3 課題（基本構成は、医療面接による情報収集＋診断仮説に基づいた身体診察＋臨床推論に基づく指導医への症例プレゼンテーション）と、大学独自で作成した課題 3 課題の計 6 課題を基本とし、可否判定は各大学の判断に委ねました。

2025 年度は 81 大学、9,102 名の医学生が受験しました。

医学生共用試験臨床実習後 OSCE の認定評価者には、卒前から卒後へかけてのシームレスな医師養成の観点から大学教員のみならず研修病院の研修指導医にも評価者になっていただくよう推奨し、評価者の総数は 3,868 名（2026 年 4 月 1 日時点）になりました。

※歯学の試験結果につきましては、8 月に刊行予定の【CATO ニュースレター No.6】の中でご報告させていただく予定です。

◆CATO 委員会のご紹介

医学生共用試験 OSCE 推進会議について

委員長 伊藤 彰一

医学生共用試験 OSCE 推進会議は、臨床実習前 OSCE および臨床実習後 OSCE に関する意思決定を担う中枢機関として、医学教育の質を保証するために重要な役割を果たしています。本会議は、学修・評価項目検討委員会や事後評価解析委員会、到達基準検討委員会、OSCE のあり方専門部会と連携し、試験の実施方針の決定や機構内外との調整、将来のあり方の検討など、実務と展望の両面から活動を展開しております。2025 年度も、シームレスな医師養成に向けた体制構築も視野に入れながら、多岐にわたる重要事項を審議してまいりました。

これら一連の取り組みは、日々多忙な中で多大なるご尽力を賜っている各大学の格別なご協力があったからこそ成立するものであり、この場をお借りして深く感謝申し上げます。今後も共用試験導入から約 20 年の歩みを振り返りつつ、時代の要請に応じた継続的な改善を行い、日本の医学教育の発展に貢献できるよう努めていく所存です。引き続き、皆様の温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

医学生共用試験 OSCE 実施管理委員会について

委員長 伊藤 彰一

医学生共用試験 OSCE 実施管理委員会は、全国の大学における臨床実習前 OSCE および臨床実習後 OSCE の運用全般を担う組織です。当委員会は、課題作成や動画製作、評価者養成や模擬患者養成を担う 4 つの小委員会、機構主催追再試験専門部会、そして e-learning 運用 WG からの提言を受け、学内試験の公的化に伴う厳正かつ公平な試験実施を支えています。具体的な業務は多岐にわたり、各大学への試験課題の提供やマニュアルの改訂、機構派遣監督者および外部評価者の派遣調整、さらには全国説明会の開催や実施本部の運営まで、運営業務を包括的に統括しています。

公的化から 3 年目を迎えた臨床実習前 OSCE は、各大学のご尽力のおかげで安定した運用フェーズに入りました。今後は、試験の妥当性を維持しつつ、さらなる効率化と負担適正化を目指しています。臨床実習後 OSCE についても、将来的なあり方を見据えた運営体制の整備を推進し、次代の医師養成に不可欠な評価基盤の確立に尽力してまいります。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

歯学生共用試験 OSCE 実施管理委員会について

委員長 新田 浩

歯学生共用試験 OSCE 実施管理委員会は、OSCE に関連する各小委員会の委員長および副委員長によって構成され、試験の円滑な運営に向けた基本方針の策定や重要事項の審議を担う組織である。本委員会は、課題管理、認定評価者、認定標準模擬患者、資材機材顎模型等策定に関する 4 つの小委員会から成り、それぞれの専門的検討を基盤として活動している。各小委員会では、適正かつ公平な試験実施体制の整備、到達基準の設定、e ラーニング教材や講習用映像の作成、評価者および模擬患者の育成、新規課題の開発と試行などについて議論が行われる。これらの成果や課題を横断的に共有し連携を強化することで、OSCE の質の向上と安定した実施体制の確立を図っている。さらに、公的化以前より事後評価解析委員会と協働し、PDCA サイクルに基づく継続的な検証と改善を重ね、歯学生の臨床能力を的確に評価する制度の発展に寄与している。

◆OSCE 評価入力システム説明会（Web）のご報告

CATO 情報管理部長 長島正



臨床実習前 OSCE 評価入力システム導入に向けた全国説明会を開催しました。

共用試験実施評価機構では、受験者の成績をより迅速かつ正確に処理できるよう、さまざまなシステムの開発に取り組んでいます。2026 年 3 月 11 日（水）には、その取り組みの一つである「臨床実習前 OSCE 評価入力システム」の導入に向けた全国説明会を、オンラインで開催しました。

本システムは、各大学で OSCE を実施する際の負担軽減を目指して開発を進めているものです。医学生共用試験の公的化にあわせて整備され、2023 年度から医学生臨床実習前 OSCE にて運用が始まりました。歯学生共用試験が公的化された 2025 年度には、医学系 16 大学、歯学系 13 大学で活用されています。より多くの大学にご利用いただけるよう、現在も機能追加や改善を続けており、その内容をご紹介します機会として、毎年説明会を開催しています。

今回の説明会は、機構が開催する全国説明会の中では珍しく、医学・歯学合同で実施しました。医学系 56 大学、歯学系 27 大学からお申し込みをいただき、関心の高さがうかがえました。当日は午前・午後の 2 回、いずれも同じ内容で開催し、オンライン会議への接続数は午前 166、午後 101 と、多くの皆様にご参加いただきました。

今後も機構では、共用試験の円滑な実施に役立つ仕組みづくりを進め、各大学を支援してまいります。引き続き、宜しくお願いいたします。

◆ 医学系・歯学系 全国規模の説明会・講習会のご報告（2026年2月～2026年4月）

医学系

・2月15日（日）

医学生共用試験臨床実習後OSCE評価者認定講習会を、千葉商工会議所の会議室を拝借して開催したところ、主に大学の先生46名が受講されました。石原慎委員長と伊藤彰一委員の運営により、各グループに1名のファシリテータがつき、小グループ討論形式で実施しました。

・2月22日（日）

CATO主催の今年度第5回目の医学生共用試験臨床実習前OSCEの追再試験を、東邦大学の施設を拝借して実施しました。1国立大学、1私立大学から13名の受験学生が参加し、CATOの運営委員、機構派遣監督者、OSCE課題責任者、各大学からの認定評価者を合わせて42名の実施関係者により、滞りなく実施しました。施設を拝借させていただいた東邦大学に御礼を申し上げます。

・2月27日（金）

医学生共用試験OSCE模擬患者養成団体向けの全国説明会を開催したところ、57大学と10模擬患者団体から計249名が参加されました。

・3月22日（日）

医学生共用試験臨床実習後OSCE評価者認定講習会をオンラインで開催したところ、44大学と10医療機関から88名の先生方が受講されました。講習会は、全体会議と、12グループに分かれ、各グループに1名のファシリテーターがつくグループ討議とからなり、4時間にわたり熱心な討議が行われました。

・3月28日（土）

医学生共用試験臨床実習前OSCEのための標準模擬患者認定試験を、日本医科大学の教育棟にて実施しました。全国から100名を超える受験者が集まり、CATOの17名の委員によりOSCE形式の医療面接と知識テストからなる試験を行いました。日本医科大学には事務職員の方々にお手伝いいただいたことの感謝と、会場を拝借させていただいたことへの御礼を申し上げます。

・4月26日（日）

今年度第1回目の医学生共用試験臨床実習後OSCE評価者認定講習会をオンラインで開催したところ、全国50大学（国立27、公立8、私立15）及び5研修病院から96名が受講されました。参加者は14グループに分かれ、各グループに1名のファシリテータがつき、OSCEの動画を見てループブックを参照しながらグループ討論による評価練習を行いました。

医学系・歯学系共通

・2025年11月18日(火)～12月12日(金)と2月2日(月)～2月16日(月)

全国の医学部及び歯学部を対象に、CATOの試験信頼性妥当性検討委員会主催の第26回講演会を6週間のオンデマンド方式で開始し、CBTの項目反応理論や到達判定基準判定等について解説をしました。

・2025年12月16日(火)～1月9日(金)と2月2日(月)～2月16日(月)

全国の医学部及び歯学部を対象に、CATOの試験信頼性妥当性検討委員会主催の第27回講演会を6週間のオンデマンド方式で開始し、主にOSCEとPXについて解説をしました。

歯学系

・4月23日（木）

歯学生共用試験臨床実習前OSCE機構派遣監督者講習会をオンラインで開催し、43名が受講しました。

・4月28日（火）

歯学生共用試験CBT実施責任者認定講習会をCATO6階会議室で開催し、24名が受講しました。

◆ 講習会開催計画		
講習会名	日程	場所
医学生共用試験CBT統括実施責任者等認定講習会	6月2日(火)	CATO内6F会議室(WEB開催)
	6月29日(月)	CATO内6F会議室(WEB開催)
医学生共用試験CBT機構派遣監督者認定講習会	7月22日(水)	CATO内6F会議室
	7月28日(火)	大阪医科薬科大学
	8月28日(金)	CATO内6F会議室
医学生共用試験臨床実習前OSCE評価者認定講習会 (機構主催)	5月16日(土)	横浜市立大学 福浦キャンパス
	5月17日(日)	
	5月31日(日)	
	10月24日(土)	兵庫医科大学 西宮キャンパス
	10月31日(土)	
	11月1日(日)	
医学生共用試験臨床実習後OSCE評価者認定講習会	4月26日(日)	オンライン
	5月24日(日)	東京慈恵会医科大学
	6月21日(日)	東京慈恵会医科大学
	7月26日(日)	ミッドランドホール(名古屋)
	9月27日(日)	札幌医科大学
	11月15日(日)	新大阪丸ビル別館
	12月20日(日)	川崎医科大学
	1月24日(土)	熊本城ホール
	2月21日(日)	未定
	3月21日(日)	オンライン
医学生共用試験OSCE機構派遣監督者認定講習会	8月5日(水)	オンライン
医学生共用試験OSCE標準模擬患者機構養成・新規講習会	7月4日(土)	オンライン
	3月12日(金)	オンライン
医学生共用試験OSCE標準模擬患者機構養成・認定試験 団体養成・既存標準模擬患者 認定試験	7月25日(土)	大阪公立大学
	3月27日(土)	日本医科大学
医学生共用試験OSCE標準模擬患者養成担当者講習会	6月11日(木)	オンライン
	10月22日(木)	オンライン
歯学生共用試験CBT実施責任者認定講習会	4月28日(火)	CATO内会議室
	5月25日(月)～ 6月5日(金)	e-learning
	10月13日(火)～ 10月23日(金)	e-learning
歯学生共用試験CBT機構派遣監督者認定講習会	5月21日(木)	CATO内会議室
	10月26日(月)～ 11月6日(金)	e-learning
歯学生共用試験臨床実習前OSCE模擬患者標準化大学担当者認定講習会	5月23日(土)	CATO内会議室
歯学生共用試験臨床実習前OSCE模擬患者標準化担当者認定講習会	5月24日(日)	CATO内会議室
歯学生共用試験臨床実習前OSCE標準模擬患者認定講習会	5月16日(土)	東北大学
	6月8日(月)	東京科学大学
	6月14日(日)	九州大学
	9月19日(土)	神奈川歯科大学
歯学生共用試験臨床実習前OSCE評価者認定講習会	8月29日(土)	神奈川歯科大学
	9月13日(日)	松本歯科大学
	9月26日(土)	九州大学
	11月28日(土)	東京科学大学
歯学生共用試験臨床実習前OSCE機構派遣監督者講習会	4月23日(木)	CATO内会議室
歯学生共用試験PXCPX実行責任者・機構派遣監督者認定講習会	5月28日(木)	CATO内会議室
歯学生共用試験PXCSX実行責任者・機構派遣監督者認定講習会	5月29日(金)	CATO内会議室
歯学生共用試験PXCPX評価者認定講習会	6月25日(木)	CATO内会議室
	11月26日(木)	CATO内会議室
歯学生共用試験PXCSX評価者認定講習会	6月26日(金)	CATO内会議室
	11月27日(金)	CATO内会議室

◆理事会報告（令和８年２月２７日開催） 及び 臨時総会報告（令和８年３月２３日開催）

○第３６回定例理事会及び第１４回臨時総会の報告

令和８年２月２７日（金）機構６Ｆ会議室において第３６回定例理事会が開催されました。また、令和８年３月２３日（月）に第１４回臨時総会が開催されました。理事会及び総会において審議・承認された事項についてご報告いたします。

（１）令和７年度補正予算（案）について

令和７年度補正予算が審議・承認されました。

令和７年度補正予算は、厚生労働省から医療施設運営費等補助金が交付されたことから、当該補助金の交付額を収益として、また、これに係る同額の事業費を費用として計上したものです。（交付額：約７億１千万円）

（２）令和８年度事業計画（案）について

令和８年度事業計画（案）について審議・承認されました。

事業計画書は、当該事業年度に実施する公益目的事業やその他の事業について、その具体的な内容と実施方法等を記載したものです。令和８年度事業計画は前年度の計画内容から大きな変更はありません。総会での承認を経て、内閣府へ提出しました。

（３）令和８年度収支予算（案）について

令和８年度収支予算（案）について審議・承認されました。

令和８年度の収支予算のポイントは次の３点です。

- ① 収入面では、会費や受験料が令和７年度と同額となったこと。
- ② 支出面では、歯学生共用試験部会の意見を踏まえ、歯学生 OSCE の外部評価者の派遣数を各課題１名（令和７年度は各試験室１名）としたことにより、これに要する旅費や謝金が令和７年度より減額となったこと。
- ③ 今後の見込では、令和１１・１２年度に次期ＣＢＴシステムの開発があることから、これに要する費用を賄うため、今後も経費削減に努め剰余金を生み出し、必要な資金を確保する予定であること。

総会での承認を経て、内閣府へ提出しました。

◆ 賛助会員 様のご紹介

CATO は、共用試験の実施とその質を更に高める活動を通じて、優れた医師・歯科医師を養成することにより、国民の健康と福祉の向上に貢献しています。

CATO の活動にご支援くださった皆様には改めて御礼申し上げますとともに、No4 発行以降にご支援いただいた団体をご紹介します。（各五十音順）

【賛助会員 様(法人)のご紹介】

- ・ 医歯薬出版株式会社
- ・ 長田電機工業株式会社
- ・ 公益社団法人日本医師会
- ・ 公益社団法人日本歯科医師会

ご支援をいただける方は、お申込み方法が 2 種類ございます。

①以下 URL の下部の【お問合せフォーム】の中にございます【賛助会員の申込】または、【寄附金の申込】にご入力いただき、お送りください。

<https://www.cato.or.jp/access.html>

②以下 URL より、【賛助会員入会申込書】または、【寄附申込書】をダウンロードし、メール、FAX または郵送のいずれかでお送りください。

【賛助会員入会申込書】

<https://www.cato.or.jp/support/supportingmember/index.html>

【寄附申込書】

<https://www.cato.or.jp/support/donation/index.html>

お問い合わせ先

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）事務局企画部

〒113-0034 東京都文京区湯島1-9-15 御茶ノ水 HY ビル7F

E-mail: kikaku@cato.or.jp

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
CATO（Common Achievement Tests Organization）
〒113-0034 東京都文京区湯島 1-9-15 御茶ノ水 HY ビル 7F
E-mail： kikaku@cato.or.jp
URL： <https://www.cato.or.jp/>

【編 集】
CATO 事務局企画部

【発 行】
令和 8 年 0 5 月

◆ ご意見・ご要望に関して

このニュースレターでご意見やお気づきの点などございましたら、お聞かせください。

CATO 事務局企画部： kikaku@cato.or.jp